

「3.11」と「ナースのユニホーム」

3.11からはや2年目、国の復興支援は遅々として進まなくても、被災地の皆さんは一人一人、生活を立て直し人生を前にすすめています。

こんなに大きな喪失体験を乗り越えるには時間もエネルギーも必要なのに・・・、その逞しさは今まで会った何人かの透析患者さんの姿にオーバーラップするものがあります。



ところで、震災は私たちの意識にも大きな変化をもたらしました。

その一つはもちろん災害時の対応ですが、もう一つはナースのユニホームです。

節電をきっかけに、涼しく動きやすいスクラブを取り入れました。



思えば30年程前までは白衣にキャップがナースの象徴でした。そして清々しいユニホームの割に仕事内容は「3K」などと言われて厳しい状況でした。それからキャップがなくなり、次に動きやすいようにパンツスタイルが導入されました。これと並行するかのようになり仕事内容はどんどん複雑になって、高度な知識やスキルが要求されるようになりました。今、ナースの象徴だった白衣に変わってカラフルな上衣とパンツに切り替えようとしています。

私たちナースはもう白衣に守られなくても、実力がついてきたのでしょうか。

社会的な地位もずいぶん改善され、「3K」と言われた仕事は同じ内容でも科学的な理論やデータに基づいて実施されるようになりました。見かけではなくQuality、仕事の内容で評価される、自信を持って白衣から動きやすい衣服に変えていける時期に来たことを喜んでいきます。と同時に白衣に対する愛着と、カラフルな仕事着に負けない良い仕事をして行こうという思いもあります。

透析治療という厳しい環境の中で、一見医療現場らしくない華やかな装いで、心のこもった看護と高度な医療を提供するのはなかなかおしゃれでカッコいいと思いませんか。

